

令和という新しい年号で迎える、初めてのお正月です。自らの進むべき方向を見失わないように、足元をしつかりと見つめながら、一歩一歩着実に歩んでまいりたいものです。

お正月の作法

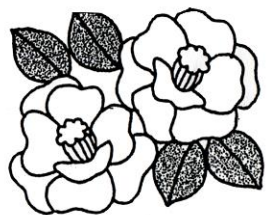
昭和49年の3月、私の師匠（父）が亡くなりました。風邪ぎみで、夕食の後、病院に行つて薬を貰つてくると言つて、立ち上がった際の突然の死でした。

心筋梗塞でした。父が一月の大半を坐つてすごした仕事机の引出しには、遺影用の写真と、筆できちんと奉書紙にしたためられた遺偈が入っていました。遺偈というのは、禅僧が、その生涯を閉じる時に残す漢詩のことで、僧侶として歩んで来た人生や修行の境涯を書き示した辞世の句のようなものであります。それを書くのは、年が明けただけの正月です。

一年一年が、死を迎えるための覚悟で始まるのが、禅寺のお正月。私も毎年、新年を迎えるたびに、自分の遺偈を書き替えています。家族には「おめでたいお正月に、死を思うなんて縁起でもない」と、不評なのですが――。

愛語

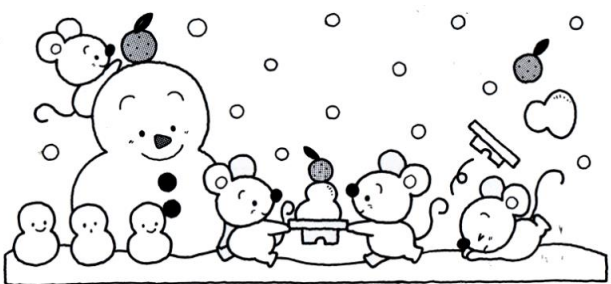
愛語というのは、衆生を見るに、生ず慈愛の生を發し、顧愛の言葉を施すなり、慈念衆生猶如赤子の懐いを貯えて言葉するは愛語なり・・・愛語能く廻天の力あることを学すべきなり。



道元禅師様が「修征義・第四章」に於いて、世の為、人の為に利益を施し、幸せになる事に就いての四つの理念、即ち基本姿勢

年の初めに師匠が、遺偈を書き替えているのを、家族の誰もが知っていました。大きく引き伸ばした僧衣姿の遺影用の写真まで用意していることは誰も知りませんでした。

お正月といえば、一般におめでたい季節。テレビ番組も新年を祝うものばかりが流れて、世の中全体がお祝いムードに包まれる中、自分の死を思うということは健康で幸せな日々を送る人にとつては、縁の無いことかもしれません。しかし、やがて私達もいずれは旅立つ身、ほんの少しだけでも死を思うことは、豊かな生を生きる為に必要なことではないでしょうか。



をお示しになっていますが、愛語というのはその一つであり、国王の決定事項も翻意させる力が言葉にはあるという、中国の故事を例にとつて、言葉かけの大切さを説いておられます。

確かに、たつたひと言の言葉で傷つくこともありますし、ひと言で救われて生きる勇氣を与えられることもあります。

私は若い頃、永平寺で「西堂」という重要な役職に就いておられる、清水浩龍老師という方について、修行させていただきましたが、この老師様は、その立ち居ふるまい、物のとらえ方そして生き方そのものが誠に親切、丁寧な方でありました。

老師様の侍者（おつきの人）をさせていただき始めの頃のこと、老師様の机の下に二ツの箱が置いてありまして、一ツの箱に入っている使い終わった鼻紙を捨て、箱の中を空にしておきました。私は気をきかした

つもりだったのです。

老師様が帰室されると、私を手招きされ、「年老りは鼻水が自然に出るものだから、しよつ中鼻をふかなくてはならぬ、鼻水をふいたあとの紙も、乾くとまた使えるのだから、捨てなくともいいのですヨ」と言われました。

道元禪師が「杓底の一残水、千億人に流れ及ぶ」と、柄杓に残った水を、もとの川にもどしたという故事のように、物も心も一ツ一つをととも大切にされるのだと心が引き締まる思いがしたものでした。

又老師様は、朝座禪が終わると、相対して三拝し「おはようございます。今日も一日、どうぞよろしく願います」と私が挨拶しますと、老師様も「どうぞよろしく」と言葉をかけて下さいます。夕方のお勤めが終わると三拝し「おばんになりました。今日も一日、ご苦労さまでした。」と私が申

同じ文句であつても、相手の心に響く言葉もあれば、「何を言っているんだ」と反発を感じさせる言葉もあります。

つまり道元禪師の言う「愛語」は仏行であるということ。そして言葉を発する私達一人、一人が仏となり、仏を行じなさいと示されているのです。

日常生活そのものが、仏道修行の場です。自戒をこめ、共に心平安な生活をしていきましよう。



特別志納者の紹介

○為夫（俗名梅原 勉） 菩提供養

金貳萬円 梅原ハルコ殿

ありがたく受納させていただきました。

しますと、老師様も「ご苦労さんでした。」と、心をこめて言葉を返して下さるのです。とかく私共は、日常、心無しに無駄な言葉を使い、人との行き違いの多い煩わしさの中に、身を置いてしまいがちです。しかしそんな日送りの中で、挨拶という短い言葉一ツでも心の平安につながるのだということとを教えていただきました。

又、私達僧侶は、日常手紙を書く時、文の終わりに謝意やお願いの心を表わして、三拝、九拝、百拝などと書きます。老師様は、九拝と書かれると、床の間に自分の書いた手紙を置かれ、ちゃんと九拝されてから「投函して来ておくれ。」と必ず言われました。ささいな言葉の中に、人を動かすめる言葉があることを、老師様は何度となくお示し下さいました。

言葉は心のあらわれ、表現であり、人柄の発する響き、光明であると思えます。

お寺から

ようやく山門下の駐車場の横地が、正式に寺の地所となり、現在、駐車場としての工事が始まりました。春のお彼岸には、皆様にご利用いただけると楽しみにしています。

又、今年は猛烈な台風で、当山の蔵（宝物庫）もその被害を受け、土壁が崩落し、中にある竹のしんが見えてしまいました。

泥壁をなおすには、時間も勿論のことながら、建物それ自体の大修理となるので、これを取りこわし、新たに、少し縮小することとなりますが、コンクリート製の宝物館を建てた方がよいと、役員会で決定されました。保存される宝物のことを考え、火災盗難等に充分対応できる建て物を、現在地に建てたいと考えています。尚、資金は皆様方の日頃の浄財、お布施等でまかないますので、どうぞ御心配をなさらないで下さい。

